

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
トリニティカレッジ 出雲医療福祉専門学 校	平成9年12月22日	岩井 元康	〒693-0037 島根県出雲市西新町3-23-1 (電話) 0853-22-9110			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 木村学園	平成9年3月26日	理事長 木村 創	〒730-0014 広島県広島市中区上幟町8-18 (電話) 082-223-1164			
目 的	21世紀福祉の時代、介護人材が不足しているなか、喫煙吸引や国家試験化など、ますます高い専門性が必要とされることとなり、教育レベルの向上が喫緊の課題となっている。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社 会福祉	専門課程	介護福祉学科	2年(昼)	2055単位時間 (又は単位)	平成21年文部科学 大臣告示第22号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	885単位時間 (又は単位)	675単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	495単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	145人	5人	17人	22人		
学期制度	■前期： 4月1日～9月30日 ■後期： 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 学科試験、実習評価各科目60点 以上を及第とする。	
長期休み	■学年始め：4月第1週 ■夏 季：お盆を含む1週間 ■冬 季：年末年始を含む2週間 ■学 年 末：3月			卒業・進級条件	全ての履修単位を修得する。 授業時数の3分の2以上の出席 介護実習は5分の4以上の出席	
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 クラス担任が個人面談を繰り返し行 い生活習慣の見直しを行い必要があれ ば保護者との面談を実施する。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動(有・無)	

就職等の状況	■主な就職先、業界等 福祉施設、障害者施設、病院等 ■就職率※¹ 100% ■卒業者に占める就職者の割合※² 98% ■その他（任意） （平成25年度卒業者に関する平成26年3月時点の 情報）	主な資格・検定	介護福祉士 日赤救急法救急員講習 ワープロ検定
中途退学の現状	■中途退学者 7名 ■中退率 4.8% 平成26年5月1日在学者 145名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年2月28日在学者 138名（平成27年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 コミュニケーション不足による施設実習不合格 ■中退防止のための取組 カウンセリングの実施。保護者との連携。		
ホームページ	URL:		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

福祉現場が求める介護福祉士を養成するため、介護現場で介護福祉士を指導する立場の職員及び本県介護福祉士の副会長を務める教育課程編成委員の意見を参考に学内での検討を経て授業科目の新設や変更を行う。また、介護施設や介護実習指導者と密接な連携をとることにより、実際の福祉現場でのニーズを把握し最新の知識や技術を授業に組み込むなど定期的に教育課程の工夫・改善を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 27 年 2 月 27 日現在

名 前	所 属
米澤 利征	医) かんど会 老人保健施設ケアセンターかんど
宮内 理美	島根県介護福祉士会 副会長
岩井 元康	トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校 学校長
高田 美裕子	トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校 教務部長
宍戸 淳治	トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校 事務部長

(開催日時)

第1回 平成 26 年 11 月 21 日 15 : 00～16 : 30

第2回 平成 27 年 3 月 20 日 15 : 30～

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学内各教科の講義や演習で学んだ知識や技術を、在宅関連施設、障害者支援施設、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等の介護実習においてより実践的に学ぶことができるよう介護実習連絡会議及び介護実習巡回時の実習指導者との意見交換等により日常的に施設側と連携をとることを基本方針とし、介護福祉士としての責任と役割を自覚できるよう連携をとりながら地域や施設の現場で利用者の日常生活を適切に援助できる能力を養う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護総合演習Ⅰ 在宅①	居宅・通所 (デイサービス)	別紙
介護総合演習Ⅰ 在宅②	地域密着型サービス、グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所	別紙
介護総合演習Ⅱ 施設①	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設	別紙
介護総合演習Ⅱ 施設②	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設	別紙
介護総合演習Ⅱ 施設③	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設	別紙

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

高等職業教育機関の一翼を担っている専門学校の教育内容が高度化・複雑化している今日、教職員の資質向上を図ることは喫緊の課題である。そのため本校においては、業界や企業が求める実務知識や効果的な指導方法を習得し教育内容や指導方法に反映することを目的として、関係専門職員、専門技術者を養成している諸施設・団体等において実施される一定の水準・実績を持つ研修・研究機関で研修させる。年度初めに研修計画を立て、運営会議で協議決定し実施する。研修終了後は研修報告書を提出し、研修成果を報告させるとともに学内において情報共有を図り、次年度以降の授業等の改善に資する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年2月27日現在

名 前	所 属
福田 宏充	特別養護老人ホーム明翔苑 (平成24年卒業生)
伊藤 智信	小規模多機能型居宅介護事業所山ぼうし 施設長
小室 芳幸	在校生保護者
岩井 元康	トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校 学校長
高田 美裕子	トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校 教務部長
宍戸 淳治	トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校 事務部長

(学校関係者評価結果の公表方法)

学校ホームページ

URL:<http://izumo.trinity.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

学校ホームページ、学校案内、高等学校向け説明会等

URL:<http://izumo.trinity.ac.jp>

(別紙様式2)

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人間の尊厳と自立	人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性について理解する	1前	30	2	○			○		○		
○			人間関係とコミュニケーション	人間理解を深め、人間関係を形成する為のコミュニケーション能力を習得する	2後	30	2	○			○		○		
○			社会の理解Ⅰ	前期に介護保険制度、後期に障害者自立支援制度と介護実践に関連する諸制度を学び、自分の生活との関連性や実務者の講話などから、社会や諸制度を学び、より身近なものとして生活者の視点での理解を深める	1通	60	4	○			○		○		
○			社会の理解Ⅱ	授業全体を①介護実践に関連する諸制度、②生活と福祉、③社会保障制度、の3つに分け、自分の生活との関連性や実務者の講話などから、社会や諸制度を学び、より身近なものとして生活者の視点での理解を深める	2通	45	3	○			○		○		
○			国語表現法	社会人として必要な国語力の基礎、基本を理解する	1前	30	2	○			○		○		
○			コンピューター演習	介護福祉士に求められる事務処理において、パソコンを活用できるよう、パソコンに関するハード・ソフトの基礎知識を習得する。また、Windowsの基本操作を習得し、ワープロソフトの基本機能を習得し、ビジネス文書を作成する	1後	30	1		○		○		○		
○			法 学	社会生活における「法」の役割を理解する	2後	30	2	○			○		○		
○			介護の基本ⅠA	介護を必要としている人の尊厳ある生活を支援する専門職として、基本的な考え方を学ぶ授業である。「介護」をめぐる社会状況はめまぐるしく変化している。その中で、介護福祉士は、多様、複雑、高度な介護課題に対する専門職として社会的役割を期待されている。まずは「介護」とは何か、介護福祉士の役割は何かを理解することで、介護福祉の第一歩を踏み出させる。グループ討議や課題レポート作成を通して、自ら考え、それを表現する力、考えをまとめていく力をつけていく	1前	30	2	○			○		○		

○		介護の基本Ⅰ B	① 介護を必要とする人たちの生活様式や思いを理解する。 ② 介護職として利用者の生活を理解するうえで大切な視点について学ぶ。 ③ 物理的・人的環境等の様々な側面から利用者の生活環境を学び理解する。 ④ 利用者の生活ニーズをいかにとらえるかを理解する。	1 前	30	2	○			○			○
○		介護の基本Ⅱ	尊厳の保持、自律支援という介護の考え方を理解し、生活の観点で理解する	1 後	15	1	○			○			○
○		介護の基本Ⅲ	他職種との協働、ケアマネジメントなどの制度、介護サービスを理解する	2 前	15	2	○			○			○
○		リハビリテーション	リハビリテーションの理念や生活機能の向上、介護予防について理解する	1 後	15	1	○			○			○
○		リスクマネジメント	介護における安全やチームケアなどについて理解する	2 前	15	1	○			○			○
○		ケアマネジメント	多職種との協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みをふまえ、具体的な事例について介護を展開できる知識・技術を理解する	2 後	15	1	○			○			○
○		コミュニケーション技術	対人援助職としてのコミュニケーション技法を理解する	1 通	45	3	○			○			○
○		生活支援技術 A	生活の理解、生活支援の考え方について理解する	1 前	30	1		○		○			○
○		生活支援技術 B	身じたく・移動・移乗の技術を習得する	1 通	60	2		○		○			○
○		生活支援技術 C①	① 健康の維持・増進のための食事の意義と目的を押さえ、介護を必要としている利用者の食生活を考える。 ② 入浴・清潔保持がもたらす効果を理解し、どのような支援を行うべきか、清潔保持の必要性や援助方法を学ぶ。 ③ 人が生きていく上で、欠かせない行為である「排泄」は、どのような動作で成り立っているのかを理解し、心理面に配慮した「より自立に向けた排泄の支援」について考え、その技術を身につけていく	1 通	60	2		○		○			○
○		生活支援技術 C②	① 健康の維持・増進のための生活行為の意義と目的を押さえ、介護を必要としている利用者の生活行為を考える。 ② 様々な生活行為が生活を営む上でどのような意味があり、どのような影響を及ぼすのかを理解し、その行為の必要性を理解し、支援方法を学ぶ。 ③ 人が生きていく上で、欠かせない様々な生活行為は、どのような動作で成り立っているのかを理解し、心理面に配慮した「より自立に向けた支援」について考え、その技術を身につけていく	2 通	30	1		○		○			○

○		介護総合 演習Ⅱ	実習の教育効果を上げるため、実習に必要な知識・技術・介護過程の展開を総合的学習とする	1後	45	1		○	○	○								
○		介護総合 演習Ⅲ	実習Ⅰを通して学んだ様々な利用者に対する介護技術、多様なサービス形態の意義を整理し、実習Ⅱに向けて統合していく準備を行なう。実習Ⅱの目標と実習内容、実習Ⅱで使用する諸様式の書き方を理解し、実践できる力を養う	2前	30	1		○	○	○								
○		介護総合 演習Ⅳ	一連の介護過程を実践した実習Ⅱに基づき、介護福祉士の専門性を高め、自己の振り返り・課題を中心に演習を行い、2年生最後の実習に向けて展開を行う	2後	30	1		○	○	○								
○		介護実 習Ⅰ在宅①	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行う	1前	45	1			○	○	○							○
○		介護実 習Ⅰ在宅②	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行う	1通	45	1			○	○	○							○
○		介護実 習Ⅰ施設①	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行う	1後	90	2			○	○	○							○
○		介護実 習Ⅱ施設②	一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行なう中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する	2前	135	3			○	○	○							○
○		介護実 習Ⅱ施設③	一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行なう中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する	2後	180	4			○	○	○							○
○		発達と老化の 理解	老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する	1通	60	4	○			○	○							
○		認知症の理解 Ⅰ	認知症の中核症状と周辺症状を理解し、介護者を悩ます行動傷害についてもその背景を理解することで具体的な対応策につなげられることを学ぶ。また若年期に発症した認知症の人やその家族に対する支援についても学ぶ	1通	30	2	○			○								○
○		認知症の理解 Ⅱ	認知症に関する基礎知識を土台に認知症のある人の特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する	2後	30	2	○			○								○
○		障害の理 解Ⅰ	障害の基礎的理解と医学的側面の基礎的知識について概説する	1後	30	2	○			○								○

○		障害の理解Ⅱ	障害の基礎的理解、医学的側面の基礎的知識をふまえ他職種との連携と協働、家族への支援について概説する	2前	30	2	○			○	○		
○		こころとからだのしくみⅠ	こころのしくみ、からだのしくみについて概説する	1前	45	3	○			○	○		
○		こころとからだのしくみⅡ	からだのしくみの基礎をふまえ、利用者の身じたくや移動、食事、入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて概説する	1後	45	3	○			○	○		
○		こころとからだのしくみⅢ	排泄、睡眠、死にゆく人のこころとからだのしくみについて概説する	2前	30	2	○			○	○		
○		医療的ケア	介護福祉士として利用者にとって安全、安楽な医療的ケアを行うための知識を理解する	2前	67	4	○			○	○		
○		医療的ケア	医学的知識を踏まえ、適切な医療的ケアを行うための技術を身につける	2後	30	1		○		○	○		
○		介護総合講座	介護福祉士に求められる知識・技術を総合的に確認し自らの力として身につける	2通	90	3		○		○	○		
合計			51 科目	2092 単位時間(92 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必修科目全ての履修と単位の修得		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。